我國日語學習者人口數與韓流風潮的關係

王敏東

臺灣科技大學應用外語系教授

摘要

近年臺灣日語學習者數的增長不若以往。有人認為造成這樣變化的原因之一是受到韓流風潮的影響。本稿即探討臺灣日語學習者數的變化與韓流的關係。研究分別從質性訪談與量化問卷調查進行。調查內容均參考先行研究成果，包含國人對日韓兩國想要親近的程度等。開放式質性調查對象（含接受訪談者）含曾學習及想學習韓語的人計11人。量化調查則請受調國人填寫對日韓兩國語言等各17題感興趣程度（5刻度）的問卷。經由上述調查結果得知：相對於對韓國（語），國人對日本（語）感興趣的層面較廣且深，且互為負相關，一方面因韓語教材及教師尚不夠充足，有人認為學習韓語的風潮不會持續太久，但國人在沒有外在條件（如親友意見、校系所開課程等）限制的情況下，若能完全依自主意見選擇，想學的外語前三名是日語、韓語、英語，因此應不能全然否定韓語學習人口可能增長的趨勢。

關鍵詞：韓國（語）、興趣、負相關、外語學習

受理日期： 2017.08.31

通過日期： 2017.10.20

Relationship between learning population of Japanese in Taiwan and Korean Wave

Wang, Ming-Tung
Professor, National Taiwan University of Science and Technology, Taiwan

Abstract

The number growth rate of Japanese learners in Taiwan is not as high as before. Some regards this decline in growth rate is owing to the Korean Wave. This study aims at investigating the correlation between learner number of Japanese in Taiwan and the Korean Wave using qualitative interview and quantitative questionnaire. The contents of study are referred to previous works including how close Taiwanese wants to be with Japanese or Koreans. The open-styled questionnaire interviewees (including those who accepted later personal interview) are 11 people who had learned or plan to learn Korean. Quantitative study was made by 11 questions (5 scales) on interests to Japanese and Korean. The study shows that Taiwanese is more interested in Japanese than Korea, revealing a negative correlation relationship. Since the lecture materials and lecturers for Korean are not sufficient to support the market, some commented that the trend to learn Korean will not sustain long. But if without constraints such as peers comments or course availability, the top three foreign languages most interested in by Taiwanese are Japanese, Korean and English. Therefore, the Korean learning population in Taiwan may still increase in the future.

Keywords: Korean, interest, negative correlation, foreign language learning

台湾における日本語学習者数と韓流ブームとの関係

王敏東
台湾科技大学応用外国語学科教授

要旨

近年、台湾における日本語学習者数は以前のような増加傾向を見せなくなった。そのような変化をもたらす原因の1つに韓国ブームの影響があるという説がある。本稿は台湾における日本語学習者数の変化と韓流ブームとの関係を検討する。研究は（インタビューを含む）質的な調査と、量的な調査（アンケート調査）の両面から進めた。質問の内容は先行文献を参考にして作成した。台湾人が日韓両国の何に興味を感じるか、についての質問等が含まれる。質的な調査の対象は韓国語を勉強したことがある人または勉強したい人計11人である。量的な調査は日韓両国の言葉などを含む17項目のそれぞれに対して興味を感じる程度（5件法）の調査である。このような調査の結果、台湾人は韓国より日本に対して興味を感じる範囲が広いのみならず程度も高く、相関分析で韓国（語）に対する興味が日本（語）に対する興味と負の相関にあることが分かった。韓国語教材や教師が十分そろっているわけではないことから、韓国語学習のブームはそう長く続かないだろうとも予想されている。しかし、もし（親や友達の意見、学校で開講されている授業科目などの）外的な制限がなく、自主的に決められるのであればどんな外国語を学びたいか、という問いに対する回答の上位3位が日本語、韓国語、英語となっており、韓国語学習者増の傾向を完全に否定することはできない。

キーワード：韓国（語）、興味、負の相関、外国語学習

台湾における日本語学習者数と韓流ブームとの関係

王敏東
台湾科技大学応用外国語学科教授

1.　はじめに

台湾における日本語学習者は、2006 年には 191,367 人で、2009 年には 247,641 人にまで到達したという[1]。しかし、2012 年には 233,417 人となり、2015 年に 233,489 人[2]とやや増加したものの、2016 年には 220,045 人に減少している[3]。香港でも日本語学習者は著しく減少しており[4]、香港の日本語教師の間では日本語学習者減は韓国語学習者増のためだと言われている[5]。

このような傾向に対し、国際交流基金（2013）や、宇田川他（2014）は、近年韓国のドラマや流行音楽の影響による韓国語を学ぶ人の増加が、日本語を学ぶ人の減少を招いていると指摘している。国際交流基金（2013：33）はさらに、台湾の日本語学習者が減少した原因の１つが韓流ブームの影響だと述べている。

しかし、台湾における日本語学習者数の変化は本当に韓流ブームと関係があるのだろうか。本稿の目的はこの問題を解明することである[6]。管見の限り、この問題について、学習者（または学習者予備群）の感情、意識などを実証的に調査した研究は見当たらない。

本研究は（インタビューを含む）質的な調査と、量的な調査（アンケート調査）との両面から進めた。質問はすべて先行文献を参考にして作成した。インタビューを含む質的な調査の対象は韓国語教

---

[1] 交流協会（2009）。
[2] 国際交流基金（2015）。
[3] 国際交流基金（2016）。
[4] 国際交流基金（2013）。
[5] 瀬尾（2016：50）。
[6] 台湾における日本語学習者数の変化は台湾における少子化現象などにも関係があると考えられるが、紙幅の制限で今回は韓流ブームとの関係のみ探りたい。

師、韓国語を勉強したことがある人、または勉強したい人で、計11人である。量的な調査（アンケート調査）は357人を対象に「(私が)韓国語を学びたい」など34項目の各問に「よく当てはまる」から「ぜんぜん当てはまらない」という5件法で答えさせる調査である。

上記の2つの調査をまとめて、台湾における日本語学習者数の変化と韓流ブームとの関係について考察する。

2. 先行研究

いわゆる韓流ブームと相まって、韓国に興味を示す人々がアジアを中心に増加しているようだ。前に言及した香港の他、中国大陸、日本などでも、韓国のドラマ、音楽、ファッションや飲食などの関係か、韓国語学習者が増えた[7]。

游・呉（2010）は台湾における韓国語教育について、韓流ブームの関係で韓国語を学ぶ台湾人や韓国語能力試験（TOPIK）を受ける人が増えるのに伴い[8]、韓国語教材の出版も好調だと紹介している。そのような韓国語教育の普及を具体的に示す例として、游・呉（2010）は台湾大学や師範大学など 31 校の大学で 48 クラスもの韓国語が開講されていることを提示している[9]。

郭（2011）は今世紀に入ってから起こった韓流ブームについて、台韓両国の資料をもとに、文化と経済（貿易）の両面から分析した。さらに、いわゆる韓流の構成項目についての調査（271人が回答）から、韓国のドラマ、服装、食品、携帯、化粧品、電気製品といった6つの項目の中で台湾に最も影響を与えたのはドラマであることを明らかにした[10]。また、韓流の影響で台湾人が韓国語を学び始めるよ

---

[7] 孙（2014）、高（2012）。

[8] 2009 年に台湾人の受験者が 1500 人を越えたという。

[9] たとえば台湾大学 105、106 学年度前期は「韓国語一」を 8 クラス（1 クラス 35 名限定）、「韓国語二」を 2 クラス開講している。最も基礎的な「韓国語一の上」は韓国の文字をよく理解し（読み書き）、韓国語で自己紹介、基本的な会話ができるところまでを学び、「韓国語二の上」は韓国の文化、マスコミ、文章などの理解を重視する、という。

[10] 他の 5 項目の順番は年齢層によって異なることがある。

うになったが学習の重点はあくまでも韓国語にあり、韓国の文化にはあまり興味を示さないという。学習者は最初若い女性が多かったが、のちに仕事や結婚のために学習する人も見られるようになった、とも述べられている。なお、郭（2011：155）は、韓国語教師の素質が一定でないことを心配している上、教材の出版数も、以前より増えたとはいえまだまだ少ないと述べている。実は、2002年に「博客來網路書局」で、言語学習類において韓国語教材がはじめて日本語学習書を抜いた[11]。この記録は本研究における、韓国語学習者の増加と日本語学習者の減少との関係の究明に役に立つと思われる。

呉（2012）は、よくP2Pを通して韓国のドラマを見ている台湾人の学生8人にインタビューを行い、韓国語の学習動機が「韓国語の文字に対する好奇心」、「韓国のドラマを理解するため」、「韓国の音楽が好きだから」などの「文字・言葉の探知」や、「韓国の文化への同定（identification)」、「アイドル崇拝」、「仲間の影響」などであることを見出している。

陳（2014）は、韓流が台湾における韓国語学科や大学院の成立の助力となった、と述べている[12]。

游・呉（2010）は近年、台湾の韓国語学科の卒業生の就職状況がいい、と報告している。

ところで、日本語学習者の減少または停滞は、はたして韓国語学習者の増加と直接関係があるのだろうか。

高（2012）は日本人の韓国語学習者133人を対象に、外国語学習要因（年齢、適性、動機、態度、性格、情緒、母語、教育経験）が継続学習とどう関連付けられているかについてアンケート調査を行った。その結果、韓国語を最初に学んだ動機が継続の動機にかなり関与していることが分かった。しかし、高（2012）の研究目的は「他

---

[11] 郭（2011：146）。

[12] たとえば政治大学東方語文学科韓国語組は2000年に韓国語学科となって2012年に修士課程を増設し、1963年に設立された中国文化大学東方語文学科韓国語組は1994年に韓国語学科となって2000年に大学院を増設し、国立高雄大学東アジア語文学科韓国語組は2008年に開設された。

の外国語を勉強しない理由は韓国語を学んだことにあるかどうか」の究明でない。

宇田川・李・李・劉（2014）は 2013 年 6 月に香港で日本語能力試験 N3 と N5 を受けた 778 人を対象に、「日本と聞いて思い浮かべる言葉 3 つ」を記述的に書いてもらったら、「食品」関係の言葉が最も多く（52.6%）、次は「アニメ」（24.8%）であった。以下、「観光」（23.4%）、「桜」（17.6%）、「景色がいい」（12.1%）、「ドラマ」（9.8%）、「ショッピング」（8.7%）、「料理」（8.2%）、「マンガ（コミック）」（8.0%）、「日本語」（7.7%）と続く。また、「将来日本語を勉強する人が増加するか」という問いについて否定的な回答をした人のパーセンテージは、N3 受験者（34.4%）の方が N5 受験者（29.3%）より多く、とくに、比較的年配の人の方がそう考える傾向が強い[13]という。理由としては「他の外国語を勉強する人が増えるからだ」と述べた人が最も多かった（225 人）。さらにどの外国語を勉強する人が増えるかと聞いたところ、「韓国語」（199 人）がトップであった。同調査の「日本語の勉強を止めようと思ったことがあるか」の質問に肯定的な返事をした人の多くは、四十代（36.6%）、と二十代（23.1%）の人に集中している。理由は、多い順に「仕事や他の勉強が忙しくて、日本語を勉強する時間が作れない」、「日本語がなかなか上達しないから」、「会話の練習が少ないから」となっている。また、「他の外国語を勉強したいから（日本語の勉強を止めようと思った）」と答えた人は 12.9%いる。「勉強したい他の外国語」としては「韓国語」（15 人）をあげた人が最も多かった。以上のことから、宇田川・李・李・劉（2014：119）は香港における韓国語学習のブームは日本語を初級から学ぶ人の減少に関係があると述べ、今後日本語の教授法を工夫すべきだと主張している。

高橋李・鍾（2016）では、2014 年に香港城市大学で開講された「文化鄰國：中國、日本、韓國」という教養科目を履修している学生 400

[13] 五十代 56.3%＞四十代 42.3%＞三十代 37.6%＞二十代 29.6%＞十代 24.6%、となっている。

人を対象に「3国の中で最も好きな国は」という調査をし、「韓国」が1位(43.75%)で、次は日本の43.50%であったという結果を得た。同調査ではまた、香港人の学生のうち「韓流ブームの影響を受けていると思う」と答えた学生が 85.00%で、「哈日風潮の影響を受けていると思う」学生が 53.50%であることも明らかにしている[14]。韓国が好きな学生に韓国の何が好きかと聞いたところ、ドラマ、バラエティー、音楽、芸能人があわせて65.14%にも達しており、次に飲食が 25.14%、服装、化粧品などのファッション関係のものが 17.71%を占めている、とのことだった[15]。それに対して、日本が好きな学生は日本のアニメ、ドラマ、音楽、バラエティーが最も好き(50.88%)で、2位は民族性と公民の素質(46.78%)、3位は飲食文化(36.14%)となっている。

瀬尾(2016)は「(香港の)学習者が日本語から韓国語へ移行するようになっている」という説に証拠がないことから、香港の成人学習者5人にインタビューをし、日本語学習から韓国語学習へ変えた経緯を尋ねた。調査結果により、瀬尾(2016)は、学習者5人はいずれも韓国語を学ぶために日本語をやめたのでなく、日本語が難しいことや、仕事が忙しいからなどの理由で日本語をあきらめていたところで、外国語の学習のやり直しとして韓国語を選んだ、と述べている。したがって、瀬尾(2016)は日本語継続学習を支援する[16]ためには学習者のニーズに応え、日本語教育を柔軟に捉えなおす必要がある、と提案している。しかし、瀬尾(2016)がインタビューした5人の韓国語を勉強し始めたきっかけに韓流ブームが関与していることは否めない。あるいは、韓流ブームに伴う「韓国語を学習しようという風潮や学習環境」という選択肢がなかったとすると、日本語学習者は簡単に日本語学習をやめただろうか。一度日本語学習をやめた学習者が外国語学習を再開する時に、韓流ブームがもたら

[14] 複数回答可の設問なので、100%を越えることがある。
[15] 複数回答可の設問なので、100%を越えることがある。
[16] たとえば生涯にわたる日本語学習の支援である。

した「韓国語を学習しようという風潮や学習環境」という選択肢がなければ、彼らは日本語に再チャレンジするだろうか。これらのことについては瀬尾（2016）は言及していない。

また、林(2015:411)は具体的な事例やデータをあげていないが、台湾における韓国語学習者の増加は日本語学習者の減少に関係があるようなことを述べている。

なお、筆者も「韓国語を勉強したかったが、この学校には韓国語の授業がないから、(やむを得ず）日本語を勉強するようになった」という学生と出会ったことがある[17]。

以上の先行研究に基づき、韓国語を学ぶ人が増える一方で、香港では日本語を学ぶ人が減り、台湾では日本語を学ぶ人が昔ほど多くなくなった、ということが分かった。しかし、果たして本当に台湾人は韓国語学習が原因で日本語を学ばなくなったのだろうか。

3. 研究方法

前節（2.先行文献）でも述べたように、我が国において「韓国語学習者増→日本語学習者減」を直接論じたものはなく、台湾での韓国ブームや、香港人学生は日本より韓国の方が好きだというようなことが報告されているのみである。

しかし、台湾人は具体的に日本または韓国のどの部分にどういった興味を感じているのだろうか。このような状況の把握は、台湾人の日本語または韓国語を勉強する意欲の究明に役に立つと考えられる。したがって、本研究は台湾人の韓国語を勉強する意欲を探る実証的な調査をする。具体的にはインタビューを含む質的な調査と量的なアンケート調査の両方から進める。質的な調査の対象は韓国語既習者（韓国語教師が含まれる）および韓国語を習いたい人、あわせて 11 名である。彼等が韓国語を勉強または教授する過程で感じたことを聞き取り、整理・分析する。量的なアンケート調査では、「韓

[17] 別の学校で教えている知人からも同じような話を聞いたことがある。

国語を学びたいと思う」など 17 項目をあげ、5 件法で日韓両国それぞれに対する回答者の興味の度合いを調べた。この部分の調査結果については SPSS を用いて記述的統計、因子分析、t 検定・分散分析（One way-ANOVA)、相関分析を行う。

4.　本研究における調査

「1.はじめに」や「2.先行文献」の節で述べたように、香港においては日本語学習者が減少している一方で韓国語学習者が増加している。そのため、香港日本語教育関係者の間では韓国語学習ブームが日本語学習者減少の一因だと考えられている。瀬尾（2016）の、第二外国語の学習において日本語から韓国語へ移行した学習者 5 人に対するインタビュー結果はそのような論点を支持していない。しかし、瀬尾（2016）の考察は対象を「日本語から韓国語へ移行した学習者」に限っており、最初に「日本語」か「韓国語」を平等に選べるチャンスが与えられるなら、どちらを学ぶか、というような状況が考慮されていない。

台湾では近年、日本語学習者数は以前のような成長ぶりはなくなっている。その一方で、韓国語学習者は大幅に増加している。国際交流基金（2013：32-33）は台湾における日本語学習者減少の理由として「韓国語・韓国文化に対する関心の高まり」をあげている。しかし、客観的な証拠はあげられておらず、「交流協会が日本語教育関係者にヒアリングを行った結果」としか示されていない。それに対して、筆者、そして高校で日本語を教えている知り合いは、「実は最初は韓国語を学びたかったが、学校で韓国語の授業が開講されていないから、仕方なく韓国語と似ていると聞いた日本語を勉強するようになった」というような日本語学習者に出会ったことがある。このような事例は、我が国では韓国語を勉強する環境が十分整備されていないために、「韓国語を学びたいと考える潜在的な人口が成熟した日本語市場に吸い込まれている」、ということを物語っているのではないか。

また、日本語と韓国語を同時に勉強している人はいるだろうか。

この節では以上のような観点から、台湾における韓国語学習者の増加が日本語学習者の減少の原因となるか、それ以外にどういう関連が見られるか、日本語学習と韓国語学習の共栄共存は可能か、などを検討する。

インタビューを含む質的な調査から思い掛けない重要な情報を得る可能性が大きいため、まず開放式質問の調査をする。開放式質問の調査における質問事項は先行文献を参考にして決定した。次にこの開放式質問の調査で得た情報を整理してアンケートを作成し、より多くの人を対象とした調査をして、量的（統計的）にも検討する。2 つの調査は 2016 年 9～11 月に行った。以下「インタビューを含む質的な調査」、「量的なアンケート調査」の順で述べていく。

4.1　インタビューを含む質的な調査

2016年9月下旬に知り合いの韓国語既習者、および韓国語を習いたいと考えている人計11人に開放式質問の調査を行い、その内インタビューを承諾してくれた5人に対し2016年9月下旬～11月上旬に調査を行った。調査を受けた者の回答をまとめると表1のようになる。

表 1　韓国語既習者および韓国語を習いたいと考えている人の回答

記号	性別	年齢	職業	韓国語を学ぶ動機・きっかけ	日本（語）または韓国（語）とのかかわり	感想	韓流ブームは日本語学習者数の変化と関係があると思うか
I	女	25~29歳	韓国企業に勤めている。	中学の時家族と韓国ドラマを見ていたお蔭で、大学に入った時はすでに１割ぐらいの台詞が分かるようになっていた。	大学で日本語が主専攻で韓国語が副専攻であった。韓国に１年交換留学したことがある。現在韓国の企業で働いているが、女性は昇進が制限され	日本語の能力は韓国語の勉強に役に立つ。が、ニュアンスなど微妙に違うところがある。両言語を同時に最初から学んだら混乱してしまう恐れがある。	それぞれの市場があるのではないか。でも、韓国（語）ブームは長く続かないだろう。

					るようだ。		
Ⅱ	男	30~34歳	大学で日本語を専攻していたが、韓国語も勉強していた。今は大学院生である。兼職として日本語も韓国語も教えている。	韓国語が日本語に似ていると聞いたため韓国語の勉強をはじめた。もう1つの言葉ができたら、将来より多くの仕事のチャンスに恵まれそうだとも思った。	韓国語を学んでから韓国に1年遊学していた。今は大学院で日本語を専攻しているが、日本語の教師も韓国語の教師もしている。学位論文では韓国語にも触れたい。	日本語を学ぶ社会人は主に仕事のため、韓国語を学ぶ学生の多くは趣味や好きな芸能人のためだ。日本語学習者は日本語能力試験を受ける意思があるが、韓国語学習者は韓国の番組を聞いて分かったり、コミュニケーションしたりするのが目的のようだ。韓国語についてはいい教材やいい教師はまだ少ないように思う。	はい。韓国語学習者の増加は日本語学習者の減少をもたらすと思う。
Ⅲ	女	25~29歳	日本企業で働いている。	韓国語が日本語に似ていると聞いたから。また、韓国は台湾に近いのでいつか使う機会があるかとも思った。	専攻は日本語だったが、韓国語を学んだ経験がある。	社会人は韓国語を学んでいても仕事が忙しくなるなどの理由で中断しやすいと思う。	韓国語学習者が増えると、日本語を学びに来る人が少なくなる可能性がある。
Ⅳ	男	25~29歳	日本企業で働いている。	韓国の友達がいたので。韓国に1ヶ月ぐらい滞在していた。それが韓国語の勉強を始めたきっかけである。	台日ハーフで韓国語を学んだことがある。兼職として日本語も韓国語も教えている。	日本語の能力は韓国語の勉強に役に立つ。日本語が分かる学習者にいつも「日本語で理解しろ」と勧めている。台湾にはいい韓国語の教材があまりなく、時々日本で求める。	あると思う。
Ⅴ	女	20~24歳	台湾の企業で日本とかかわる仕事をしている。	韓国へ遊びに行ったことがきっかけで韓国語を面白く思うようになった。就職後の現在、韓国語は重要だと実感している。	専攻は日本語だったが、韓国語を学んだことがある。	日本語の能力は韓国語の勉強に役に立つ。	その可能性は十分あると思う。翻訳など仕事の内容が同じでもどうも韓国語の方の給料がいいらしい。
Ⅵ	女	15~20歳	学生（専攻は日本語にも韓国語にも関	韓国の芸能人が好きだから。	今日本語を学んでいる。韓国語をネットの教材などを利用して自	日本語の能力は韓国語の勉強に役に立つと聞いた。	いいえ、思わない。

			係がない）		習しているが、もっと勉強したい。		
Ⅶ	女	15~20歳	学生（専攻は日本語にも韓国語にも関係がない）	韓国の芸能人が好きだから。	今日本語を学んでいる。韓国語も勉強してみたい。	日本語が分かる人は韓国語を簡単に身に付けられると聞いた。	いいえ、関係ないと思う。
Ⅷ	女	20~24歳	学生（専攻は日本語にも韓国語にも関係がない）	韓国の華僑で母親が韓国人である。	日本語を勉強したことがある。今はアルバイトとして韓国語の家庭教師をやっている。	KPOPの関係で韓国語を学ぶ若者が多いが、仕事のために学ぶ社会人もいる。日本語の文法概念は、韓国語の学習に部分的に有利である。韓国の大学が出した幾つかの教材がなかなかいいと評価している。	はい。韓国（語）ブームは3年ぐらい行けると思うが、5年はちょっと無理かと思う。
Ⅸ	女	20~24歳	学生（外国語専攻）	日本語はもうある程度分かるから、その経験が韓国語の勉強に有利だと聞いた。韓国のことがとにかく好きだ。最初は韓国のドラマの影響かもしれない。	日本語N1の資格を取得。韓国語も学んでいる。大学の奨学金をもらって韓国留学の機会を得たが、代わりに大学を卒業する時間が遅くなるため、韓国へ行くことを止めた。	韓国語を勉強しているクラスの人たちはほぼ皆韓国のドラマやKPOPなどが好きで、日本語が全く分からない。また、二十代の女性が多い。私は日本語が分かるお蔭か、発音がきれいだとか文法の理解がいいと褒められており、達成感がある。しかし、日本語にない音があるため、うまく聞き取れないことが時々ある。	そうは思わない。韓国語の使用者人口は到底少ないからだ。が、韓国語もできたら、プラスになると思う。
Ⅹ	女	20~24歳	学生（外国語専攻）	韓国の芸能人が好きだったから、先に韓国語を自習していた。日本語は大学2年の時から大学で勉強し始め、今は2年目だ。	今日本語を勉強している。韓国のドラマなどが好きで韓国語も学びたい。	日本語が分かれば、就職しやすいと思う。日本の芸能人も好きだ。韓国語を自習して覚えたが、韓国で実際使ってみたらちゃんと通じた。自分の回りの半分程度の人は韓国語を学びたいと考えるか、ま	あまり関係がないと思う。知り合いの多くは両方学んでいる。

						たは学んでいる。	
XI	女	20~24歳	学生（専攻は日本語にも韓国語にも関係がない）	韓国の芸能人が好きで、韓国のドラマや歌詞を聞いて理解したいからだ。	今日本語を勉強している。韓国のドラマなどが好きで韓国語も学びたい。	まず日本語の勉強に専念したい。機会があれば、韓国語の勉強をきちんと始めたい。	いいえ。日本語は韓国語と似ていると聞いた。どちらかが分かればもう1つの言葉の学習にいい刺激になると思う。

表1に示したように、この部分の調査を受けた者の約半数が「韓流ブームは日本語学習者数の変化に関係があると思う」、と答えているが、残りの半数はそうは思わないと答えている。韓国語を教えている3人が3人とも「ある」と思っている[18]のに対して、韓国語をきちんと勉強しておらず、これから学びたいという人は「韓流ブームは日本語学習者数の変化と関係がある」と思わない、と答えている。また、韓国（語）ブームは長く続かないと予想している人もいる[19]。なお、韓国語を教えている3人の中の2人は教材と教師に満足していない。これは前掲の郭（2011）の指摘と一致している。

4.2　量的なアンケート調査

上記の調査結果および先行文献を踏まえて韓国（語）または日本（語）に対する興味に関するアンケート調査票を作成し、知人、もしくはその親戚や友達に記入してもらった。360人の回答を回収したが、有効回答数のものは357だった。回答者の詳細は表2の通りである。

表2　調査対象の内訳

		n=357	
		人数	%
A.性別	男	112	31.37%
	女	245	68.63%

[18] そのうちの2人は日本語も教えている。
[19] 正式なインタビューではないが、台湾の韓国語学科での主任歴がある教師が、筆者との雑談（2016年12月）の中で同様の意見を述べていた。

B.年齢	10~14 歳		2	0.56%
	15~19 歳		103	28.85%
	20~24 歳		132	36.97%
	25~29 歳		37	10.36%
	30~34 歳		29	8.12%
	35~39 歳		27	7.56%
	40~44 歳		11	3.08%
	45~49 歳		7	1.96%
	50~54 歳		9	2.52%
C.職業	学生	日本語専攻	74	20.79%
		韓国語専攻	11	3.09%
		日本語と韓国語のダブルメジャー	1	0.28%
		専攻は日本語にも韓国語にも関係がない	144	40.45%
	フルタイムの仕事		96	26.89%
	パートタイムの仕事		19	5.32%
	主婦		11	3.08%
	その他（定年）		1	0.28%
D.習ったことのある外国語（複数選択可）	英語		335	93.84%
	ドイツ語		27	7.56%
	フランス語		34	9.52%
	スペイン語		31	8.68%
	日本語		291	81.51%
	韓国語		79	22.13%
	その他（タイ語、イタリア語、ロシア語など）		14	3.92%
	外国語を習ったことはない		3	0.84%
E.今学んでいる外国語（複数選択可）	英語		201	56.30%
	ドイツ語		13	3.64%
	フランス語		8	2.24%
	スペイン語		12	3.36%
	日本語		293	82.07%
	韓国語		55	15.41%
	その他（タイ語、イタリア語など）		11	3.08%
	ない		26	7.28%
F.英語以外で最初に習った外国語	ドイツ語		8	2.24%
	フランス語		16	4.48%
	スペイン語		8	2.24%
	日本語		267	74.79%
	韓国語		36	10.08%
	その他（タイ語など）		3	0.84%
	ない		40	11.20%
G.（親や友達の意見、学校で開講されているなど）外的な制限がなく、自主的に選べるなら学びたい外国語（複数選択可）	英語		109	30.53%
	ドイツ語		58	16.25%
	フランス語		60	16.81%
	スペイン語		54	15.13%
	日本語		269	75.35%
	韓国語		119	33.33%
	その他（タイ語、ノルウェー語など）		18	5.04%
	ない（外国語を習いたくない）		5	1.40%

表 2 で分かるように、この部分のアンケート調査を受けた人は女性が多い。また、年齢層を見ると各年代に広く分布しているが、20～24 歳の人が最も多かった。職業に関しては、学生が多いものの、日本語または韓国語を専攻している人はそう多くなかった。学習歴がある外国語（D）の 1 位は英語（335 人、93.84%）、次は日本語（291 人、81.51%）で、3 番目に多いのは韓国語（79 人、22.13%）である。順位から見れば、韓国語の勢いは確かに大きいが、実際に勉強したことがある人の数はそう多くない。また、日本語を勉強したことがある人の数、パーセンテージと、義務教育である小学校から必修科目とされている英語を勉強したことがある人の数、パーセンテージとの差はそう大きくない。これは台湾における日本語教育の市場は飽和に近いことを物語っている。

今学んでいる外国語（E）は多い順に日本語（293 人、82.07%）、英語（201 人、56.30%）、韓国語（55 人、15.41%）となっている。つまり、大多数の人が義務教育の一環として学んだ英語の他に求める外国語は日本語であることが分かる。この結果と呼応するように、最も多くの人が英語以外で最初に習った外国語（F）は日本語だった（267 人、74.79%）。また、（親や友達の意見、学校で開講されているなど）外的な制限がなく、自主的に選択できるなら学びたい外国語（G）の 1 位は日本語（269 人、75.35%）で、2 位は韓国語（119 人、33.33%）で、いずれも 3 位の英語（109 人、30.53%）より上位だった。

上記の調査結果（D～G）から日本語が、義務教育ではないものの台湾の外国語教育において重要な位置を占めていることが分かる。一方、「外的な制限がなく、自主的に決められたら、学びたい外国語」の質問に韓国語と記入した人数は、「学習歴がある外国語」と「今学んでいる外国語」を尋ねられて韓国語と回答したそれぞれの人数より多い。つまり、「外的な制限がなく、自主的に決められたら」、韓国語を学びたいが、現実の制限で実際に「学んだ」または「学んでいる」人はそう多くない、ということである。これは現段階で台湾

では、韓国語を自由自在に学べる環境はまださほど整備されていない、ということの証といえよう。

4.2.1　韓国（語）または日本（語）に対する興味

この節は 357 人の韓国（語）または日本（語）に対する興味（それぞれ 17 項目であわせて 34 項目）について述べる。4.2.1.1～4.2.1.4 の小節に分けて以下のような分析を行う。

4.2.1.1 記述的統計：韓国（語）に対する興味 17 項目の記述的統計と、日本（語）に対する興味 17 項目の記述的統計とを行う。

4.2.1.2 因子分析：韓国（語）に対する興味の因子分析と、日本（語）に対する興味の因子分析とを行う。

4.2.1.3 t 検定と分散分析（One way-ANOVA）：韓国（語）に対する興味は、性別または年齢、職業、学んだ外国語、今学んでいる外国語、学びたい外国語、というグループ間で統計的な有意差があるかどうかの分析を行う。日本（語）に対する興味についても性別または年齢、職業、学んだ外国語、今学んでいる外国語、学びたい外国語、というグループ間で統計的な有意差があるかどうかの分析を行う。

4.2.1.4 韓国（語）に対する興味と日本（語）に対する興味との相関分析を行う。

その前にアンケートの信頼性を提示する（表 3）。

表 3　アンケートの信頼性

Cronbach's Alpha	N of Items
.920	34

Cronbach's Alpha が.920 で、非常に良好であることが分かる。

また、バートレット検定（KMO and Bartlett's Test）を行ったら、因子分析に適することが確認できた（表 4）。

表 4　バートレット検定

Kaiser-Meyer-Olkin Measure of Sampling Adequacy.		.943
Bartlett's Test of Sphericity	Approx. Chi-Square	10742.573
	Df	561
	Sig.	.000

4.2.1.1　記述的統計

4.2.1.1.1　韓国

アンケートの「韓国（語）に対する興味」の部分について、まず、記述的統計を提示する（表 5）。

表 5　韓国（語）に対する興味の記述的統計

N=357	平均値	標準偏差	順位
1.韓国語を学びたい。	3.25	1.36	5
2.韓国のドラマが好きだ。	3.12	1.34	8
3.韓国の歌が好きだ。	3.12	1.35	8
4.韓国の芸能人が好きだ。	3.03	1.30	11
5.韓国のドラマ、歌、または好きな芸能人の発言を聞いて理解したい。	3.17	1.39	6
6.韓国の HP、韓国の芸能人の FB などを見るのが好きだ。	2.72	1.32	14
7.韓国のアニメに興味を持っている。	2.33	1.09	17
8.韓国の言葉や文字に興味を持っている。	2.92	1.37	12
9.韓国語で韓国人とコミュニケーションしてみたい。	3.12	1.40	8
10.韓国に旅行に行きたい。	3.42	1.34	2
11.韓国のファッション（服装や化粧品）が好きだ。	3.15	1.34	7
12.韓国の食べ物が好きだ。	3.43	1.23	1
13.韓国の文化が理解したい。	3.27	1.28	4
14.韓国の電子製品、科技、または車が好きだ。	2.59	1.09	15
15.韓国語の学習でいい成績をとりたい。	2.89	1.34	13
16.韓国（語）と関連する仕事をしたい。	2.55	1.24	16
17.まわりに韓国（語）に興味を持っている人が多い。	3.41	1.29	3
平均	3.03	1.30	

17 項目の平均は 3.03 で高い数値とは言えない。上位 5 位は「韓国の食べ物が好きだ」（平均値 3.43）、「韓国に旅行に行きたい」（平均値 3.42）、「まわりに韓国（語）に興味を持っている人が多い」（平均値 3.41）、「韓国の文化が理解したい」（平均値 3.27）、「韓国語を

学びたい」(平均値 3.25)で、「韓国のドラマが好きだ」(平均値 3.12、8 位)、「韓国の歌が好きだ」(平均値 3.12、8 位)や「韓国の芸能人が好きだ」(平均値 3.03、11 位)より上である。国際交流基金(2013)や、宇田川他(2014)による、韓国のドラマや流行音楽の影響による韓国語を学ぶ人の増加が、日本語を学ぶ人の減少を招いたという指摘や、郭(2011)の示した、韓国のドラマ、服装、食品、携帯、化粧品、電気製品といった 6 つの項目の中で台湾に最も影響を与えたのはドラマであることや、韓流の影響で台湾人が韓国語を学び始めるようになったが学習の重点は韓国語にあり、韓国の文化にはあまり興味を示さない、というような結果とずれている。

4.2.1.1.2　日本

アンケートの「日本(語)に対する興味」の 17 項目の記述的統計は表 6 の通りである。

表 6　日本(語)に対する興味の記述的統計

N=357	平均値	標準偏差	順位
18.日本語を学びたい。	4.50	0.78	3
19.日本のドラマが好きだ。	4.10	0.97	11
20.日本の歌が好きだ。	4.09	0.99	12
21.日本の芸能人が好きだ。	3.84	0.99	17
22.日本のドラマ、歌、または好きな芸能人の発言を聞いて理解したい。	4.43	0.85	6
23.日本の HP、日本の芸能人の FB などを見るのが好きだ。	3.88	1.07	16
24.日本のアニメに興味を持っている。	4.07	1.07	13
25.日本の言葉や文字に興味を持っている。	4.38	0.88	8
26.日本語で日本人とコミュニケーションしてみたい。	4.55	0.80	2
27.日本に旅行に行きたい。	4.73	0.66	1
28.日本のファッション(服装や化粧品)が好きだ。	4.15	0.96	10
29.日本の食べ物が好きだ。	4.47	0.81	4
30.日本の文化が理解したい。	4.45	0.85	5
31.日本の電子製品、科技、または車が好きだ。	3.98	1.00	15
32.日本語の学習でいい成績をとりたい。	4.42	0.92	7
33.日本(語)と関連する仕事をしたい。	4.02	1.05	14
34.まわりに日本(語)に興味を持っている人が多い。	4.29	0.88	9
平均	4.26	0.91	

17 項目の平均は 4.26 で、最下位である「日本の芸能人が好きだ」の平均値（3.84）は韓国に対する興味の最上位「韓国の食べ物が好きだ」の平均値（3.43）を上回っている。つまり台湾人は日本に関しては 17 項目すべてに非常に興味を感じていると言えよう。また、「日本語を学びたい」（平均値 4.50、3 位）、「日本語で日本人とコミュニケーションしてみたい。」（平均値 4.55、2 位）など日本語学習と深くかかわっている項目がかなり上位にあることも分かった。

4.2.1.2　因子分析

4.2.1.2.1　韓国

この節では因子分析法を用いて韓国（語）に対する興味の各項目間の関係を調べる。まず、潜在因子の構造を見出すために、主成分分析法により、2 つの因子を抽出した。累積負荷量は 77.320 であり、結果は表 7 の通りである。

表 7　韓国（語）に対する興味の因子

	項目	負荷量
第一因子内発的因子	1.韓国語を学びたい。	.982
	2.韓国のドラマが好きだ。	.830
	3.韓国の歌が好きだ。	.982
	4.韓国の芸能人が好きだ。	.982
	5.韓国のドラマ、歌、または好きな芸能人の発言を聞いて理解したい。	.830
	7.韓国のアニメに興味を持っている。	.750
	8.韓国の言葉や文字に興味を持っている。	.982
	9.韓国語で韓国人とコミュニケーションしてみたい。	.982
	10.韓国に旅行に行きたい。	.750
	11.韓国のファッション（服装や化粧品）が好きだ。	.830
	12.韓国の食べ物が好きだ。	.750
	13.韓国の文化が理解したい。	.750
	14.韓国の電子製品、科技、または車が好きだ。	.982
第二因子外発的因子	6.韓国のHP、韓国の芸能人のFBなどを見るのが好きだ。	.835
	15.韓国語の学習でいい成績をとりたい。	.842
	16.韓国（語）と関連する仕事をしたい。	.842
	17.まわりに韓国（語）に興味を持っている人が多い。	.910

因子抽出法：主成分分析
回転法：Kaiserの正規化を伴うバリマックス法

第一因子に含まれる項目に「～が好きだ」という表現のものが多

いのに対して、第二因子には「いい成績をとりたい」、「仕事をしたい」が入っている。まさに内発的動機と外発的な動機の対照のようになっている。

4.2.1.2.2　日本

この節では因子分析法を用いて日本に対する興味の各項目間の関係を調べる。主成分分析法により、4 つの因子を抽出した。累積負荷量は 79.908 であり、結果は表 8 の通りである。

表 8　日本（語）に対する興味の因子

	項目	負荷量
第一因子多面的因子	18.日本語を学びたい。	.447
	20.日本の歌が好きだ。	.554
	21.日本の芸能人が好きだ。	.447
	22.日本のドラマ、歌、または好きな芸能人の発言を聞いて理解したい。	.554
	23.日本のHP、日本の芸能人のFBなどを見るのが好きだ。	.447
	24.日本のアニメに興味を持っている。	.757
	25.日本の言葉や文字に興味を持っている。	.447
	29.日本の食べ物が好きだ。	.813
	31.日本の電子製品、科技、または車が好きだ。	.813
	32.日本語の学習でいい成績をとりたい。	.813
	33.日本（語）と関連する仕事をしたい。	.809
	34.まわりに日本（語）に興味を持っている人が多い。	.869
第二因子ファッション因子	19.日本のドラマが好きだ。	.700
	28.日本のファッション（服装や化粧品）が好きだ。	.937
第三因子交流因子	26.日本語で日本人とコミュニケーションしてみたい。	.633
	27.日本に旅行に行きたい。	.939
第四因子文化理解因子	30.日本の文化が理解したい。	.927

因子抽出法: 主成分分析
回転法: Kaiserの正規化を伴うバリマックス法

第一因子は芸能･歌･アニメなどの大衆文化にかかわる項目の他、科技、日本語、食べ物など 12 の項目も含まれているので多面的因子と名付けた。第二因子を構成する項目に、「日本のファッション（服装や化粧品）が好きだ」の負荷量が高いのでファッション因子と命名した。第三因子は「日本に旅行」と「日本人とコミュニケーション」の要素が含まれているので交流因子とした。第四因子は 1 項目

の文化理解因子である。

4.2.1.3　t 検定・分散分析

2 組、または 2 組以上の標本について平均値に対する有意差があるかどうかに関して、それぞれ t 検定（性別、年齢（24 歳以下/25 歳以上）[20]、職業（学生/非学生））または分散分析（習ったことのある外国語、今学んでいる外国語、最初に習った外国語、学びたい外国語）を行う。

その結果、韓国（語）に対する興味と性別（P<0.001）との関連が検出され（表 9）、女性の方が高かった。

表 9　性別における t 検定

N=357	男		女		t	P
	M	SD	M	SD		
韓国	2.54	0.96	3.22	1.08	-5.574	<0.001
日本	4.33	0.62	4.23	0.67	1.287	0.199

また、分散分析（習ったことのある外国語、今学んでいる外国語、最初に習った外国語、学びたい外国語）も行う。その前に、今回調査を受けた者の外国語の学習状況を提示する（表 10）。

表 10　外国語の学習状況

	(1)日本語（＋韓国語以外の外国語）	(2)韓国語（＋日本語以外の外国語）	(3)日本語＋韓国語（＋他の外国語）	(4)その他の状況
習ったことのある外国語	225	14	64	54
今学んでいる外国語	259	20	35	43
英語以外で最初に習った外国語	251	27	—	77
（親や友達の意見、学校で開講されているなど）外的な制限がなく、自主的に選べるなら学びたい外	192	40	78	47

[20] 5 歳を 1 つのグループ、10 歳を 1 つのグループにして、分散分析を行っても、各グループにおける統計的に顕著な差が検出されていない。

国語（複数選択可）				

まず、「習ったことのある外国語」、「今学んでいる外国語」、「英語以外で最初に習った外国語」、「(親や友達の意見、学校で開講されているなど) 外的な制限がなく、自主的に選べるなら学びたい外国語」についてはいずれも「日本語(＋韓国語以外の外国語)」と答えた人が最も多いが、その中では「(親や友達の意見、学校で開講されているなど）外的な制限がなく、自主的に選べるなら学びたい外国語」に対して「日本語(＋韓国語以外の外国語)」と答えた人の数が最も少ない。これは日本語を継続的に学習する意欲のない人が若干いるということであろう。

それに対して、「韓国語(＋日本語以外の外国語)」と答えた人の数を見ると、「習ったことのある外国語」(14 人)、「今学んでいる外国語」(20 人)、「英語以外で最初に習った外国語」(27 人)、「(親や友達の意見、学校で開講されているなど）外的な制限がなく、自主的に選べるなら学びたい外国語」(40 人）となっており、「(親や友達の意見、学校で開講されているなど）外的な制限がなく、自主的に選べるなら学びたい外国語」としてこう答えた人が一番多い。これは以前何らかの原因で韓国語を学ばなかったが、外的な制限がなければ今後韓国語を学びたいと考えている人がある程度いる、ということである。

また、「日本語＋韓国語(＋他の外国語)」と答えた人の数は、「習ったことのある外国語」、「今学んでいる外国語」、「(親や友達の意見、学校で開講されているなど）外的な制限がなく、自主的に選べるなら学びたい外国語」に対してそれぞれ 64 人、35 人、78 人となっている。日本語と韓国語の両方を学びたい人の数は、実際にその両方を学んでいる人の数の倍以上である。

表 10 からは、日本語学習者の伸びが難しい代わりに、韓国語学習者の増加は期待できそうだと考えられる。

表 11～表 14 で示すように、習ったことのある外国語、今学んでいる外国語、最初に習った外国語、学びたい外国語を答えさせるといった質問において、韓国（語）に対する興味の答えに「韓国語」が含まれるグループは他のグループ間と、日本（語）に対する興味の答えに「日本語」が含まれるグループは他のグループ間との間に有意差が検出されている。

表 11　「習ったことのある外国語」(One way-ANOVA)

N=357	韓国		日本	
	M	SD	M	SD
(1)日本語(＋韓国語以外の外国語)	2.75	1.02	4.41	0.49
(2)韓国語(＋日本語以外の外国語語)	4.16	0.61	3.18	1.20
(3)日本語＋韓国語(＋他の外国語)	3.74	0.94	4.11	0.81
(4)その他の状況	2.96	1.12	4.04	0.60
F/Sig.	19.417/ 0.000		19.949/ 0.000	
Post Hoc	(2)韓>(1)日＊ (2)韓>(4)その他＊ (3)日韓>(1)日＊ (3)日韓>(4)その他＊		(1)日>(2)韓＊ (1)日>(3)日韓＊ (1)日>(4)その他＊ (3)日韓>(2)韓＊ (4)その他>(2)韓＊	

*p<.05

表 12　「今学んでいる外国語」(One way-ANOVA)

N=357	韓国		日本	
	M	SD	M	SD
(1)日本語(＋韓国語以外の外国語)	2.82	1.04	4.36	0.52
(2)韓国語(＋日本語以外の外国語語)	4.08	0.91	3.49	1.10
(3)日本語＋韓国語(＋他の外国語)	3.95	0.76	4.26	0.76
(4)その他の状況	2.88	1.05	4.01	0.73
F/Sig.	19.026/ 0.000		13.958/ 0.000	
Post Hoc	(2)韓>(1)日＊ (2)韓>(4)その他＊ (3)日韓>(1)日＊ (3)日韓>(4)その他＊		(1)日>(2)韓＊ (1)日>(4)その他＊ (3)日韓>(2)韓＊ (4)その他>(2)韓＊	

*p<.05

表 13　「英語以外で最初に習った外国語」(One way-ANOVA)

N=357	韓国		日本	
	M	SD	M	SD
(1)日本語(＋韓国語以外の外国語)	2.85	1.03	4.37	0.56
(2)韓国語(＋日本語以外の外国語語)	4.22	0.67	3.50	1.14
(4)その他の状況	3.13	1.14	4.15	0.56
F/Sig.	18.225/ 0.000		22.888/ 0.000	
Post Hoc	(2)韓>(1)日＊ (2)韓>(4)その他＊		(1)日>韓＊ (1)日>(4)その他＊ (4)その他>(2)韓＊	

*p<.05

表 14　「(親や友達の意見、学校で開講されているなど) 外的な制限がなく、自主的に選べるなら学びたい外国語」(One way-ANOVA)

N=357	韓国		日本	
	M	SD	M	SD
(1)日本語(＋韓国語以外の外国語)	2.42	0.89	4.39	0.54
(2)韓国語(＋日本語以外の外国語語)	4.36	0.57	3.87	0.84
(3)日本語＋韓国語(＋他の外国語)	3.76	0.65	4.27	0.52
(4)その他の状況	3.13	1.03	3.99	0.92
F/Sig.	79.461/ 0.000		9.669/ 0.000	
Post Hoc	(2)韓>(1)日＊ (2)韓>(3)日韓＊ (2)韓>(4)その他＊ (4)その他>(1)日＊ (3)日韓>(4)その他＊ (3)日韓>(1)日＊		(1)日>(2)韓＊ (1)日>(4)その他＊ (3)日韓>(2)韓＊	

*p<.05

4.2.1.4　相関分析

この節は韓国（語）に対する興味と日本（語）に対する興味との間にどういう関係があるかを検討する。結果は表 15 の通りで、有意な弱い負の相関があると分かった。つまり、韓国（語）に対する興味が高い人ほど日本（語）に対する興味が低く、一方が高い人ほど他方が低いという、負の相関が認められるということである。

表 15　韓国（語）に対する興味と日本（語）に対する興味との相関関係

		韓国（語）に対する興味	日本（語）に対する興味
韓国（語）に対する興味	Pearson相関係数	1	-.170**
	有意確率（両側）		.000
	N	336	320
日本（語）に対する興味	Pearson 相関係数	-.170**	1
	有意確率（両側）	.000	
	N	320	333

**.相関係数　1% 有意水準　（両側）。
*. 相関係数 5%　有意水準（両側）。

5.　おわりに

本研究における調査をまとめると、表 16 のようになる。

表 16　本研究における調査のまとめ

<table>
<tr><th>調査方法</th><th colspan="3">調査事項</th><th colspan="2">韓流ブームは日本語学習者数の変化と関係があるか（ある＝○、ない＝×、どちらとも言えない＝△）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">インタビューを含む質的な調査</td><td colspan="3">教師</td><td>○</td><td rowspan="2">教師と学習者とあわせて約半分→△</td></tr>
<tr><td colspan="3">学習者</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="8">量的なアンケート調査</td><td colspan="3">記述的統計</td><td colspan="2">韓国語＜日本語→×</td></tr>
<tr><td colspan="3">因子分析（因子の数）</td><td colspan="2">韓国（語）2 因子＜日本（語）4 因子</td></tr>
<tr><td colspan="3">t 検定（韓国（語）に対する興味）</td><td colspan="2">男性＜女性</td></tr>
<tr><td rowspan="4">韓国語または日本語との接触</td><td rowspan="3">人数</td><td>習ったことのある外国語</td><td colspan="2" rowspan="3">韓国語＜日本語→現在日本語が優勢</td></tr>
<tr><td>今学んでいる外国語</td></tr>
<tr><td>英語以外で最初に習った外国語</td></tr>
<tr><td>人数</td><td>外的な制限がなければ学びたい外国語</td><td colspan="2">韓国語＜日本語→×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">選択肢</td><td>日本語（＋韓国語以外の外国語）</td><td colspan="2">外的な制限がなければ学びたい外国語＜習ったことのある外国語＜英語以外で最初に習った外国語＜今学んでいる外国語→○</td></tr>
<tr><td>韓国語（＋日</td><td colspan="2">習ったことのある外国語＜今学んでいる</td></tr>
</table>

			本語以外の外国語）	外国語＜英語以外で最初に習った外国語＜外的な制限がなければ学びたい外国語→○	
			日本語＋韓国語（＋他の外国語）	今学んでいる外国語＜習ったことのある外国語＜外的な制限がなければ学びたい外国語→○	
		分散分析	韓国（語）に対する興味	日本語（＋他の外国語語）を習ったことがある・今学んでいる・英語以外で最初に習った・外的な制限がなければ学びたい＜韓国語（＋他の外国語語）を習った・今学んでいる・英語以外で最初に習った・外的な制限がなければ学びたい	現在日本語が優勢
			日本語（語）に対する興味	韓国語（＋他の外国語語）を習ったことがある・今学んでいる・英語以外で最初に習った・外的な制限がなければ学びたい＜日本語（＋他の外国語語）を習ったことがある・今学んでいる・英語以外で最初に習った・外的な制限がなければ学びたい	
	相関分析			韓国（語）に対する興味と日本（語）に対する興味との間に負の相関あり→○	

表 16 でも分かるように、現在台湾人は韓国（語）より日本（語）の方に興味を強く感じている。また、「習ったことのある外国語」、「今学んでいる外国語」、「英語以外で最初に習った外国語」、「（親や友達の意見、学校で開講されているなど）外的な制限がなく、自主的に選べるなら学びたい外国語」を尋ねたところ韓国語より日本語の方が上位にあることも明らかにされている。なお、韓国語を習ったことのある人・学んでいる・学びたい人は韓国（語）に対する興味が日本（語）に対する興味より高いのに対して、日本語を習ったことのある・学んでいる・学びたい人は日本（語）に対する興味が韓国（語）に対する興味より高い、ということも分かった。そのような点から、長い間最も多くの台湾人が第二外国語として学習してきた日本語が、近いうち韓国語に取って代わられることはなかろう。

しかし、以前何らかの理由で韓国語を学ばなかったが、今後自主的に決められれば、韓国語を学びたいと答えた人がある程度いる（韓国語を習ったことがある・学んでいる人より多い）。その「何らかの理由」としては、開講されているところがまだそう多くないこと、

よい教材や教師がまだ足りないことがあげられる。現に、通っている学校で韓国語が開講されていないから、「仕方なく」日本語を学ぶことにした人がいる。

ただし、因子分析の結果、韓国（語）に対する興味は比較的単純な2因子から構成されているのに対して、日本（語）に対する興味は4因子で構成されていることが分かった。つまり、台湾人の日本（語）に対する興味は韓国（語）に対する興味より多面的・重層的であると言える。これは、韓国（語）学習人口の増減が比較的少数の原因（因子）に左右されるとも言えよう。

最後に韓国（語）に対する興味と日本（語）に対する興味との関係について相関分析を行ったところ、互いに負の相関があるとみなせることが分かった。

韓国語学習者増の可能性がある、という現状の中で、現在台湾における日本語教育の優勢を如何に維持するか、ということこそ、日本語学習者を確保する道であろう。

謝辞：本研究は科技部が助成している研究計画（MOST106-2410-H-011-016-）の成果の一部である。本研究での資料の整理について、国防医学院の周雨青氏、台中科技大学の呉致秀氏、台湾科技大学の葉珊氏、葉子瑋氏、林家琪氏のご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

参考文献

日本語

宇田川洋子・李夢娟・李澤森・劉礪志（2014）「香港の日本語学習者減少の要因―調査報告―」『日本学刊』17、pp.106-120

高朝順（2012）「第二言語習得における学習継続意識と学習者要因の関連性について―韓国語を学習している日本人学習者を対象に―」『専修国文』91、pp.159-178

国際交流基金（2012）『2012年度日本語教育機関調査（抜粋）』（http://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl

/survey_2012/2012_s_excerpt_j.pdf)
国際交流基金（2013)『海外の日本語教育の現状』くろしお出版
国際交流基金（2015)『2015 年海外日本語教育機関調査実施中（～2015 年 12 月)』(https://jpsurvey.net/jfsearch/do/result)
国際交流基金（2016)『 2015 年度海外日本語教育機関調査結果（速報値）2016/11/10』
（http://www.jpf.go.jp/j/about/press/2016/dl/2016-057-2.pdf)
瀬尾悠希子（2016)「日本語から韓国語へ移行する学習者達―香港の成人学習者へのインタビューから―」『日本学刊』19、pp.49-63
林長河（2015)「グローバル化時代における台湾日本語学科の課題と展望―質の向上とイノベーションをめぐって」『台灣日語教育學報』25、pp. 405-434

中国語

交流協會（2009)《報告：台湾における日本語教育事情調査》(中文版）
（https://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/15aef977a6d6761f49256de4002084ae/bc91be92bb078ce7492579e5000d2f47/$FILE/2009reserch2.pdf)
孙璐（2014)「高校旅游专业学生学习韩语的动机分析――以四川旅游学院为例」《产业与科技论坛》13（16)、pp.149-150
吳旻純(2012)《觀看韓劇對韓語學習動機與態度之影響 ： 以透過 P2P 影音串流模式閱聽者為例》國立高雄師範大學工業科技教育學系碩士論文
高橋李玉香・鍾貫豪（2016)「哈日與韓流――從問卷調查看香港年青人對日韓文化的認同」《日本学刊》19、pp.171-184
郭秋雯(2011)「韓流對台灣的影響及其因應對策」《Taiwanese Journal of WTO Studies》18、pp.127-170
陳慶智（2014)「國內線上韓語課程的實施現況與課題」《外國語文研究》21、pp.115-132

游娟鐶（2011）「韓國文化政策中「韓語世界化」的推動與展望」《韓國學報》22、pp.81-102

游娟鐶・吳惠純（2010）「台灣地區韓語教育的回顧與展望」《韓國學報》21、pp.50-76

温朝霞・张倩秋（2011）「当代青少年对日韩影视剧喜爱度的调查与分析」《学术交流》13（16）、pp.188-191

105 學年度臺灣大學「韓文一上」課程大綱
（http://nol.ntu.edu.tw/nol/coursesearch/print_table.php?course_id=107%2050011&class=07&dpt_code=0000&ser_no=80086&semester=105-1&lang=CH）

105 學年度臺灣大學「韓文二上」課程大綱
（http://nol.ntu.edu.tw/nol/coursesearch/print_table.php?course_id=107%2050111&class=01&dpt_code=0000&ser_no=28647&semester=105-1&lang=CH）

106 學年度臺灣大學「韓文一上」課程大綱
（http://nol.ntu.edu.tw/nol/coursesearch/print_table.php?course_id=004%2030311&class=07&dpt_code=0000&ser_no=80163&semester=106-1&lang=CH）

106 學年度臺灣大學「韓文二上」課程大綱
（http://nol.ntu.edu.tw/nol/coursesearch/print_table.php?course_id=004%2030321&class=03&dpt_code=0000&ser_no=15669&semester=106-1&lang=CH）